

霧島市「今週の一問」 小五国語 二月十五日版
H二十七年鹿児島学習定着度調査問題から



① 山口さんの学級では、テレビ、新聞、インターネットなどのいろいろなマスメディア（一度に多くの人に情報を伝える手だん）とどう付き合っているか考え、文章にまとめることにしました。

そこで、テレビについて書かれた文章を読み、テレビとの付き合い方について筆者の考えをとらえることにしました。

テレビとの付き合い方

佐藤 二雄

「百聞は一見にしかず」ということわざがあります。わたしたちは、読んだり、聞いたりして分からないことでも、見ればすぐに理解できるということがよくあります。このことわざを現代流に言えば、人から百回聞くよりテレビで一回見るほうがはるかに分かりやすいというような意味になるでしょうか。

ある調査によれば、「世の中の出来事や動きを知るうえで役に立つメディアは何ですか。」という質問に対して、テレビが一番と答えた人が断然多かったそうです。新聞を一番に挙げた人は、テレビを挙げた人の半分もいませんでした。また、別の調査では、新聞やラジオなどのほかのメディアと比べて、テレビと付き合っている時間がずっと多いという結果が出ています。

わたしたちは、テレビのおかげで、世界中の出来事や動きを知ることができます。出来事のあらましかけを知って、実際の様子は想像してみようというのではありません。その場にいる人たちと同じように、現実の出来事や動きを映像で見ているのです。それどころか、映像が選ばれ、整理されている分だけ、その場の人たち以上に様子を理解しているような気持ちになることさえあります。テレビで伝えられていることが分かりやすいだけに、見るだけで分かったつもりになるのです。しかし、テレビの送り手が集め、選び、編集してとどける情報の数々は、実際の出来事にふくまれるぼうだいな量の情報のほんの一部です。テレビの送り手は、さまざまな出来事の中から、だれにでも受け入れてもらえそうな、そのごく一部をカメラで切り取って行くだけです。何万倍もある報道されなかった事実の中には、報道された事実よりもっと重要な情報もたくさんあるでしょう。

このことを、分かりやすく図に表してみよう。上の図の、黒くぬりつぶした部分だけをテレビカメラが切り取ります。すると、わたしたちは黒い部分が全てであるかのような錯覚におちいってしまいがちです。本当は、黒い部分よりもはるかに広い白い部分があるのに、その存在をわすれてしまうのです。

もっと分かりやすく具体的に考えてみましょう。休み時間に広いグラウンドで、いろいろなグループが、サッカーやドッジボール、おにごっこ、なわとびなどで元気に遊んでいるとします。テレビカメラが切り取る黒い部分は、グループの一つ一つであり、一人一人のすがたかもしれません。そして、切り取られた黒い部分に目をうばわれることによって、白い部分に当たるグラウンドいっぱいには広がっている全体は、むしろ見えなくなります。

テレビ番組の送り手に、白い部分をかくす意図はなくとも、わたしたちのほうで、伝えられる映像の外にある部分を、もう想像しようとしなくなっているのかもしれない。わたしたちは、白い部分のあることをわすれないようにしながら、テレビと付き合い合う必要があるのではないのでしょうか。

※ 錯覚・・・事実とは異なるが、そうであるかのように思うこと。

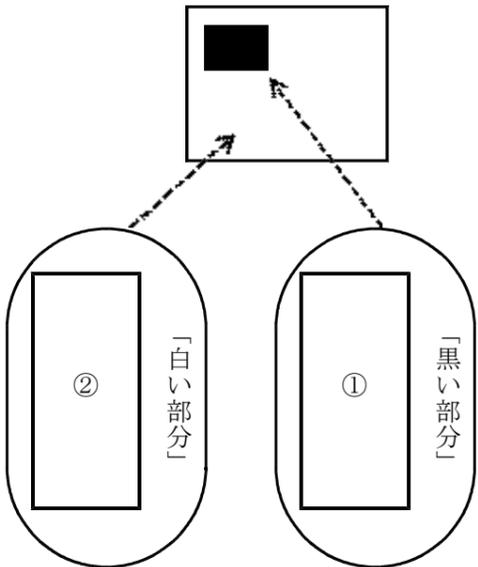


一 山口さんたちは、文章中の「白い部分」と「黒い部分」について疑問をもちました。文章には、資料として、二まいの映像の写真が示されています。二まいとも、エジプトのピラミッドをさつえいした映像の写真です。これらの二まいの写真で説明すると、白い部分の存在をわすれてしまう写真とは、どちらの写真のことですか。適当なものを次のアまたはイから一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。また、その写真を見る人は、どのような錯覚におちいってしまうか、□の中に書きましょう。



- 白い部分の存在をわすれてしまう写真
- 選んだ写真を見る人は、どのような錯覚におちいってしまうのでしょうか。

二 山口さんたちは、筆者の説明を理解するために、「白い部分」と「黒い部分」に関する言葉の整理をしてみました。「黒い部分」と「白い部分」の①、②の□に入る言葉の組み合わせとして、適当なものを次のアまたはイの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。



ア

① 情報のほんの一部
報道された事実

② ぼうだいな量の情報
報道されなかった事実

① ぼうだいな量の情報
報道された事実

② 情報のほんの一部
報道されなかった事実

霧島市「今週の一問」 小五国語 二月十五日版
H二十七年鹿児島学習定着度調査問題から



1 山口さんの学級では、テレビ、新聞、インターネットなどのいろいろなマスメディア（一度に多くの人に情報を伝える手だん）とどう付き合っているか考え、文章にまとめることにしました。

そこで、テレビについて書かれた文章を読み、テレビとの付き合い方について筆者の考えをとらえることにしました。

テレビとの付き合い方

佐藤 二雄

「百聞は一見にしかず」ということわざがあります。わたしたちは、読んだり、聞いたりして分からないことでも、見ればすぐに理解できるということがよくあります。このことわざを現代流に言えば、人から百回聞くよりテレビで一回見るほうがはるかに分かりやすいというような意味になるでしょうか。

ある調査によれば、「世の中の出来事や動きを知るうえで役に立つメディアは何ですか。」という質問に対して、テレビが一番と答えた人が断然多かったそうです。新聞を一番に挙げた人は、テレビを挙げた人の半分もいませんでした。また、別の調査では、新聞やラジオなどのほかのメディアと比べて、テレビと付き合っている時間がずっと多いという結果が出ています。

わたしたちは、テレビのおかげで、世界中の出来事や動きを知ることができます。出来事のあらましかけを知って、実際の様子は想像して見るというのではありません。その場にいる人たちと同じように、現実の出来事や動きを映像で見ているのです。それどころか、映像が選ばれ、整理されている分だけ、その場の人たち以上に様子を理解しているような気持ちになることさえあります。テレビで伝えられていることが分かりやすいだけに、見るだけで分かったつもりになるのです。しかし、テレビの送り手が集め、選び、編集してとどける情報の数々は、実際の出来事にふくまれるぼうだいな量の情報のほんの一部です。テレビの送り手は、さまざまな出来事の中から、だれにでも受け入れてもらえそうな、そのごく一部をカメラで切り取って行くだけです。何万倍もある報道されなかった事実の中には、報道された事実よりもっと重要な情報もたくさんあるでしょう。

このことを、分かりやすく図に表してみよう。上の図の、黒くぬりつぶした部分だけをテレビカメラが切り取ります。すると、わたしたちは黒い部分が全てであるかのような錯覚におちいってしまいがちです。本当は、黒い部分よりもはるかに広い白い部分があるのに、その存在をわすれてしまうのです。

もっと分かりやすく具体的に考えてみましょう。休み時間に広いグラウンドで、いろいろなグループが、サッカーやドッジボール、おにごっこ、なわとびなどで元気に遊んでいるとします。テレビカメラが切り取る黒い部分は、グループの一つ一つであり、一人一人のすがたかもしれません。そして、切り取られた黒い部分に目をうばわれることによって、白い部分に当たるグラウンドいっぱいには広がっている全体は、むしろ見えなくなります。

テレビ番組の送り手に、白い部分をかくす意図はなくとも、わたしたちのほうで、伝えられる映像の外にある部分を、もう想像しようとしなくなっているのかもしれない。わたしたちは、白い部分のあることをわすれないようにしながら、テレビと付き合い合う必要があるのではないのでしょうか。

※ 錯覚・・・事実とは異なるが、そうであるかのように思うこと。



1 山口さんたちは、文章中の「白い部分」と「黒い部分」について疑問をもちました。文章には、資料として、二まいの映像の写真が示されています。二まいとも、エジプトのピラミッドをさつえいした映像の写真です。これらの二まいの写真で説明すると、白い部分の存在をわすれてしまう写真とは、どちらの写真のことですか。適当なものを次のアまたはイから一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。また、その写真を見る人は、どのような錯覚におちいってしまうか、□の中に書きましょう。

○ 白い部分の存在をわすれてしまう写真

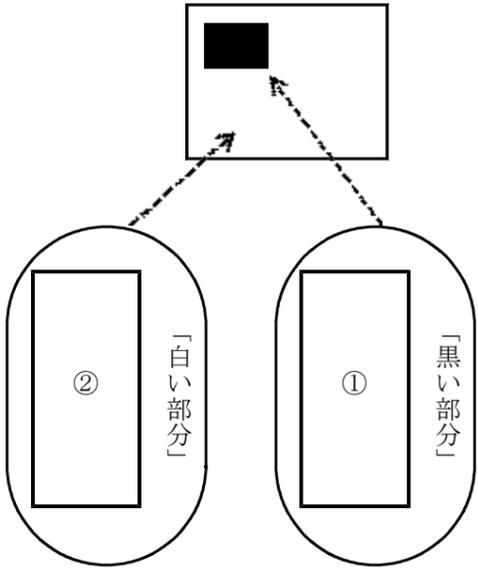


○ 選んだ写真を見る人は、どのような錯覚におちいってしまうのでしょうか。

【例】「ピラミッドのまわりは、さばくが広がっているというさつかくにおちいる。」
「ピラミッドのまわりには何も無いというさつかくにおちいる。」
「ピラミッドの近くに町はないというさつかくにおちいる。」など



二 山口さんたちは、筆者の説明を理解するために、「白い部分」と「黒い部分」に関する言葉の整理をしてみました。「黒い部分」と「白い部分」の①、②の□に入る言葉の組み合わせとして、適当なものを次のアまたはイの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。



ア	① 情報のほんの一部 報道された事実	② ぼうだいな量の情報 報道されなかった事実
	① ぼうだいな量の情報 報道された事実	② 情報のほんの一部 報道されなかった事実